

# 出資法人等経営状況報告書

## 1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和 5 年 8 月 25 日	担当部署	文化観光部 観光振興課
-------	-----------------	------	-------------

※以下は令和 5 年 3 月 31 日現在の内容です。

## 2 法人等の概要

法人名	一般財団法人ゑしんの里観光公社		
代表者	理事長 宮下 利雄		
	<input type="checkbox"/> 常勤	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	<input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他
所在地	新潟県上越市板倉区米増 27 番地 4		
設立年月日	平成元年 4 月 27 日		
基本金	20,000 千円	市出捐割合	85.0%
設立目的	光ヶ原高原を中心として地域に潜在している観光資源を掘り起こし、それを有効に活用しながら地域の魅力を広く普及する観光事業に努め、潤いと活力ある地域づくりに寄与する。		
主な事業	(1) 信越トレイルの情報発信 (2) 板倉そば打ち体験交流施設いたくら亭の経営 (3) ゑしんの里記念館の管理運営業務 (4) 観光情報の発信及び宣伝活動（観光パンフレット及びチラシの作成、報道機関への情報提供） (5) 各種観光イベントの開催及び参加 (6) 上越観光コンベンション協会等と連携して行う観光客の誘致活動		

## 3 役員数

(単位：人)

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
理事	1	5	6	6	0	0
監事	0	2	2	2	0	0
計	1	7	8	8	0	0

## 4 職員数

(単位：人)

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	2	2	0
その他	7	7	0
計	9	9	0

## 5 事業実績（概要）

### 【令和4年度の経営状況】

- ・ 令和4年度の経常収益は、前年度との比較で2,727千円の減（6.9%の減）の36,938千円となりました。このうち、事業収益では、今年度から開始した信越トレイルクラブビジターセンターの運営、地域おこし協力隊員との連携によるフリーマーケットの実施といった新規事業及び板倉特産品販売、光ヶ原高原キャットツアー写真展、上越科学館と連携した子供向けサイエンスショー等の継続事業のほか各種市民団体への利用PRにより、昨年度との比較で、入館者数は781人（10.7%の増）増加、レストラン・宴会・ショップ売上の合計は465千円（28.7%の増）増加し、18,365千円となりました。
- ・ 経常費用は、前年度と比較して、901千円の減（2.2%の減）の39,498千円となりました。
- ・ この結果、当期一般正味財産増減額は△2,682千円となり、令和4年度末の正味財産期末残高は39,609千円となりました。

### 【令和4年度の事業概要】

#### (1) ぬしんの里記念館

- ・ 記念館としての役割を維持しつつ、施設環境を生かした収益性のある運営を行いました。
- ・ 市内の様々な団体に利用を呼び掛けたほか、毎月第4土曜日に、「どうがたの郷特産物生産組合」や「いなかの味まんま」、「寺野いろりばた」の3団体による特産物の販売を行いました。9月には、地域おこし協力隊が実施したフリーマーケットを同時開催し、記念館の機能を活かしながら相乗効果が期待できる取り組みを行いました。
- ・ とりわけ1月下旬から3月中旬に開催した雛人形展は、期間中1,603人の来館者がありました。

#### (2) そば処いたくら亭

- ・ 中山間地域の生産者と協力し、板倉そばの知名度向上に向けた取組を促進しました。

#### (3) 光ヶ原高原

- ・ 光ヶ原高原観光総合施設は令和4年度より条例廃止となり、光ヶ原高原キャンプ場のみ光ヶ原高原ファン倶楽部により運営されました。公社としては光ヶ原高原ファン倶楽部事務局としてキャンプ場を運営しました。

### 【各施設の利用実績】

（単位：人）

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ぬしんの里記念館	4,334	7,282	8,063
うち自主事業	1,225	2,947	4,839
そば処いたくら亭	11,711	12,453	12,443
グリーンパル光原荘	593	283	—

- ・ ぬしんの里記念館の入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、行動制限が緩和されたことなどから、前年度と比較して、781人の増（10.7%の増）の8,063人となりました。
- ・ そば処いたくら亭の利用者数は、前年度と比較して10人減の12,443人となりました。
- ・ 光ヶ原高原グリーンパル光原荘は、令和4年度より閉鎖となりました。

6 財務状況（税抜）

（単位：千円）

項目		令和2年度 自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日	令和3年度 自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日	令和4年度 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日
正味財産増減計算書	一般正味財産増減の部			
	経常収益	35,315	39,665	36,938
	基本財産運用益	91	0	0
	特定資産運用益	0	0	0
	受取会費	0	0	0
	事業収益	15,266	17,770	18,365
	受取補助金等	19,938	21,894	18,572
	その他経常収益	20	0	0
	経常費用	36,648	40,399	39,498
	事業費	33,405	36,719	35,834
	管理費	3,243	3,680	3,664
	当期経常増減額	△1,333	△734	△2,560
	経常外収益	0	0	0
	経常外費用	86	69	51
	当期経常外増減額	△86	△69	△51
	税引前当期一般正味財産増減額	△1,419	△803	△2,612
	法人税等	84	70	70
	当期一般正味財産増減額	△1,503	△873	△2,682
	一般正味財産期首残高	44,666	43,163	42,290
	一般正味財産期末残高	43,163	42,290	39,609
指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高	43,163	42,290	39,609	
項目	令和3年3月31日現在	令和4年3月31日現在	令和5年3月31日現在	
貸借対照表	資産	50,937	48,493	43,891
	負債	7,774	6,202	4,282
	正味財産	43,163	42,290	39,609
	指定正味財産	0	0	0
一般正味財産	43,163	42,290	39,609	

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

## 7 市からの財政支出等

### (1) 委託額 (税込)

(単位: 千円)

内訳		令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①	ゑしんの里記念館 指定管理委託料	13,110	15,324	16,044	
②	グリーンパル光原荘等 管理業務委託	3,457	3,278	0	
計		16,567	18,602	16,044	

### (2) 財政援助額 (税込)

(単位: 千円)

内訳		令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①	補助金 (助成金)	743	858	1,318	
	観光事業補助金	400	400	400	
	地域活動支援事業	0	358	518	
	事業者応援給付金	200	0	0	
	事業継続支援緊急助成金	143	0	0	
	事業者経営支援金	0	100	0	
	物価高騰支援金	0	0	300	
	第5次事業者支援金	0	0	100	
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他 (補填金)	1,284	0	696	
	エネルギー高騰損害 補填金	0	0	696	
	指定管理減収補填金	1,284	0	0	
計		2,027	858	2,014	

## 8 市以外からの補助金・助成金等

### (1) 受給額 (税込)

(単位: 千円)

内訳		令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①	持続化給付金	2,000	400	20	中小企業庁
②	雇用調整助成金	441	0	0	新潟労働局
③	三密対策支援金	186	0	0	新潟県
④	感染症対策認定店舗 設備導入支援	0	344	0	新潟県
計		2,627	744	20	

## 9 今後の経営計画等

### (1) 次期事業計画

情報発信を幅広く行い、近隣地域とも連携を図った企画を実施するとともに、各施設においては、集客を目指し、次の主な取組を強化します。

#### ○ ゑしんの里記念館

- ・ 令和4年度から信越トレイルビジターセンター機能が加わったことにより、光ヶ原高原キャンプ場の運営など、アウトドア観光の拠点として、情報発信に取り組みます。
- ・ 板倉区の貴重な歴史財産を後世に伝えるとともに、特に中山間地域の地域振興に寄与する事業にも積極的に関与していきます。
- ・ 記念館の持つ景観の良い庭園を活用したイベントを、従来実施してきたイベントと同時開催することで相乗効果が得られるような取り組みを行います。

#### ○ そば処いたくら亭

- ・ 味、質、素材のこだわりによる他店との差別化を図るとともに、季節に応じたメニューを考案し提供するなど、地域特性を活かした経営を推進します。
- ・ 板倉で生産される蕎麦の普及のための商品開発や、蕎麦打ち職人育成講座を開催し、手打ち蕎麦技術の継承を図ることで、蕎麦による地域振興を目指します。
- ・ 新たに地元産の蕎麦を使った乾麺の商品開発を行い、令和5年度より店頭販売を行います。

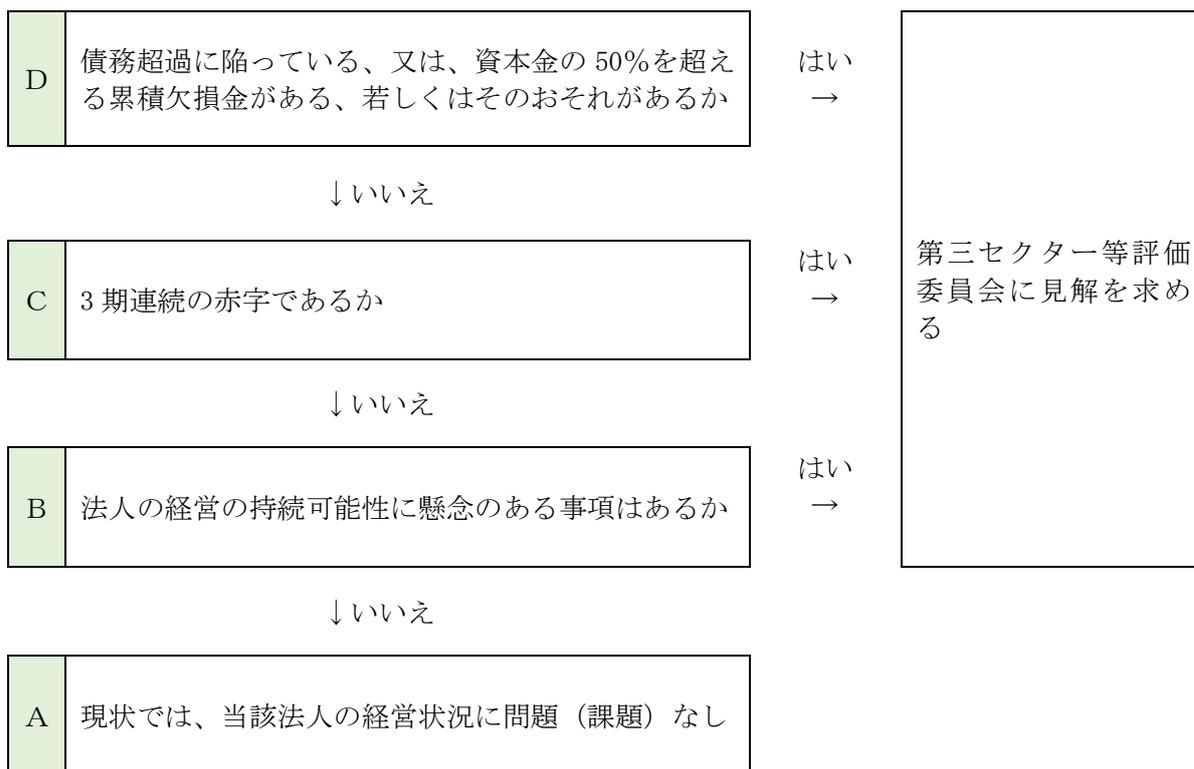
### (2) 中長期経営計画

なし

10 令和5年度 経営状況の分析・評価

(1) 第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋



フローチャートによる評価基準		備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が3期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	C	→ BからD評価の法人は(2)へ
<p><b>【特記事項】</b> 4期連続で正味財産が減少しているため、C評価となった。</p>		

- ・ 非営利法人においては、累積欠損金という概念がないため、初期の正味財産に対する減少分を累積欠損金と読み替える。
- ・ 「3期連続の赤字」の判断においては、「当期一般正味財産増減高」と「当期指定正味財産増減高」の合計がマイナスとなる場合は、赤字と読み替える。

## (2) 令和5年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価

第三セクター等評価委員会の評価
<input checked="" type="checkbox"/> 課題あり <input type="checkbox"/> 課題なし
第三セクター等評価委員会の分析
<b>【上記評価の理由】</b> ・10 割蕎麦乾麺の販売量増加を急ぎたいのは理解できるが、商品コンセプトが確立されていない印象を受ける。 ・ゑしんの里記念館、いたくら亭それぞれのターゲットがなかなか絞り込まれておらず、ターゲットに対するアプローチをかけていく必要性を感じる。 ・市所管課において、財務状況を期中においてどのように確認し、期中における方向性の調整などが図れる状況となっているのか、疑問を感じる。
<b>【その他指摘事項等】</b> ① コンセプト（ターゲットとそのニーズの明確化、ターゲットにとってのベネフィット検証、特徴・メリット等）を整理してから、販売促進手法を考えてみるのはどうか。 ② 財務状況について、予算実績管理を法人で行い、期中の状況を市所管課で確認できる仕組みづくりをしたらどうか。 ③ 株式会社ブリッジにいがた（株式会社第四北越フィナンシャルグループの地域商社）の活用を検討してみてもどうか。 ④ いたくら亭において、収益を増加させるための環境を整えることに注力をしたらどうか。また、文化価値のある建物で、地元の安心・安全な食材を活かした体験ができるなど、固有の強みを活かした運営とふるさと納税を活用した販路拡大に注力をしたらどうか。 ⑤ 広告宣伝費が有効に機能しているかを検証し、いつ・誰に・何を PR するのかを整理した上で、戦略を持った投資となるよう意識してみてもどうか。

## (3) 分析・評価結果を受けての対応方針

第三セクターによる対応方針
① 10 割蕎麦乾麺のターゲットなどを整理し、販売促進の方向性を検討する。 ② 財務状況の管理や状況確認ができる仕組みづくりを関係機関とともに検討する。 ③ 活用について、前向きに検討する。 ④ 地元生産者や行政の関係機関と相談しながら、販路拡大に努める。 ⑤ より有効な広告宣伝となるよう、これまでの検証を行い、今後の戦略を立てていく。
市担当部署による対応方針
① コンセプトを明確化し販売促進の方向性の検討を公社と協議する。 ② 財務管理の明確化や状況確認についての仕組みづくりを、公社と協議する。 ③ 活用について、前向きな検討を公社に求めていく。 ④ 地元生産者と相談しながら販路拡大に努める取り組みを公社と連携して行う。 ⑤ 有効な宣伝広告について、これまでの検証を行い、今後の戦略について公社と協議する。

## 1 1 令和4年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価に対する対応状況

令和4年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価【概要】
① 事業計画や販路拡大に向けた発信について、行政側と運営側で情報共有と経営戦略の統一を図り、事業の安定化を進めてはどうか。 ② いたくら亭の集客力アップ、収益増加に注力したらどうか。いたくらそばのブランド化やマーケティング戦略のアウトソーシングも行い、推進したらどうか。 ③ 新規顧客の獲得を目標に、新たなPR場所やターゲットについて検討した上で、施設の魅力を発信したらどうか。
第三セクターによる対応状況
① 随時、情報共有に努めた。 ② 寒ざらし蕎麦の乾麺を開発し、いたくら亭と記念館で試験的に販売を開始している。今後は、商品の表裏に商品名等を記載したラベルを貼って販売する予定である。また、上越妙高駅等、新たな販売場所も開拓する予定である。 ③ 地域独自予算の提案を行い、一部、予算を獲得することができた。
市担当部署による対応状況
① 公社と毎月担当者会議を実施し、情報共有を図り、地域独自予算の申請について検討した。 ③ 事業実施に必要な体制（財源等含む）を整えるなど同公社と連携した結果、地域独自予算として、信越トレイル関連事業費及び、いたくら亭の活性化に資する事業費を獲得した。